

繊維樹脂用 金属やすり



曲面に密着して磨けるシート状の金属やすりの試作品

呉のオリエントが開発

航空機向け 耐久性向上

やすり製造のオリエント（呉市）は、航空機に使われる繊維強化樹脂の曲面を磨くシート状の金属やすりを開発した。ステンレスの薄板に微細な刃を立て、これまで使われてきた紙やすりを大きく上回る耐久性を実現した。来年4月の発売を予定し、将来は年10億円の売り上げを目指す。

「オムニシート」は厚さ0.5mm。簡単に曲がり、曲面に密着させて磨ける。従来製品の厚さは2mm程度あった。熟練工の技を再現する独自の加工機で、細か

な刃を3方向に立てた。硬い炭素繊維を1、2枚目の刃で引っかき上げて、3枚目で切る。

繊維強化樹脂の仕上げに

は紙やすりがよく使われるが、耐久性が課題だった。オムニシートは紙やすりの15倍以上、長持ちするという。

広島製作所江波工場（広島市中区）で旅客機の部品を製造する三菱重工業（東京）の助言を受け、5年前から開発を進めてきた。機体を軽くするために繊維強化樹脂の使用が増え、専用のやすりが必要になっていた。試作品を11〜13日に名古屋市である航空・宇宙機器開発展に出展する。

爪やすりなどへの応用も視野に入れる。オリエントの林光彦社長は「伝統的なやすり製造の技術を進化させた。新製品を第一の創業の起点としたい」と話している。（川上裕）

2018.04.07 中国新聞掲載